－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	旧約聖書を学ぶ						
担当教員	宮田　玲					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12030
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	モーセ五書を読む
授業の概要	旧約聖書には新約聖書よりもなじみ薄い人が多いのではないかと思いますが、意外に私たちに知られた話もあります。旧約聖書の中でもっとも基本的な内容が記されているのが「モーセ五書」と呼ばれる部分で、旧約聖書の最初におかれた「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」の五つの書を指します。ここにはエデンの園やノアの箱舟などの物語が含まれています。また、新約聖書のエピソードの背景となっているものもあります。授業では、モーセ五書をしっかり読みすすめながら、旧約聖書についての理解を深めていきます。特に、「創世記」と「出エジプト記」からはいくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介します。
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について、基本的な知識を獲得でき、書かれている内容や物語を説明できるようになります。【知識・理解】 また、旧約聖書と新約聖書およびキリスト教を関連づけることができるようになります。【知識・理解】
授業計画	第１回 新約聖書と旧約聖書、聖書の舞台 第２回 物語（１）　アダムとイブの物語 第３回 モーセ五書の成り立ち 第４回 物語（２）　ノアの洪水 第５回 物語（３）　バベルの塔 第６回 物語（４）　アブラハムとサラの物語 第７回 物語（５）　小テスト・ サラとハガルをめぐって 第８回 物語（６）　イサク奉献 第９回 物語（７）　イサクとリベカ 第１０回　物語（８）　ヤコブとエサウ 第１１回　物語（９）　出エジプト：モーセ 第１２回　物語（１０）　出エジプト：エジプトから荒野へ 第１３回　物語（１１）　十戒 第１４回　物語（１２）　カナンへ：モーセの死 第１５回　まとめ、質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回扱う指定箇所を読み、前回の授業との関連性を予習してきてください。〈２時間〉 授業後学習：その回の授業テーマとキーワードについて要点を文章にまとめてください。〈２時間〉
授業方法	講義 授業で取り上げるテーマにしたがって、受講生の意見を求め、それに対するフィードバックを行ないながら聖書を読みすすめます。
評価基準と評価方法	学期末試験 ６０％：基本的な用語の確認と、聖書をどのように読めるかという二点を中心に、授業で学んだことの理解度を評価します。 平常点 ４０％：毎回の聖書箇所朗読と小テストに加え、テーマへのレスポンスペーパーの提出を求めます。 テストの詳細はmanabaでお伝えします。
履修上の注意	１２回以上の出席を求めます。
教科書	資料を毎回配布します。出席者のみ受け取ることができます。
参考書	並木浩一・荒井章三（編）　『旧約聖書を学ぶ人のために』　世界思想社　2012年　ISBN:978-4790715566 石川立・中村信博・越後屋朗（編）　『聖書　語りの風景』　キリスト新聞社　2006年　ISBN:978-4873954762 また、授業内で関連参考図書を紹介します。

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	教会音楽入門A						
担当教員	緋田　芳江					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z1213A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	教会音楽（声楽作品）を学ぶ。
授業の概要	教会音楽（声楽作品）の演習。実際に作品を歌ったり聴いたりすることを通してキリスト教音楽について多角的に学ぶ。作品の歴史や背景、歌詞(ラテン語・ドイツ語)の意味や発音、基礎的な楽典を解説し、受講人数やレベルに合う楽曲を繰り返し歌って練習するなかで理解を深め、声楽の基礎技術を習得する。合わせて関連する作品を鑑賞することで、より高次の芸術への興味を促し理解力を養う。
到達目標	教会音楽について概要を理解し説明することが出来る【知識・理解】 楽譜を読んで歌唱することが出来る【汎用的技能】 他者と協力し演奏を実現することが出来る【態度・志向性】 芸術を理解し楽しむことが出来る【態度・志向性】
授業計画	1.　授業の進め方と概論　簡単な歌唱課題 2.　聖書と音楽　「マニフィカト」 3.　ラテン語単旋律聖歌の学びと試唱 4.　教会暦と音楽１：コラールの学び 5.　教会暦と音楽２：受難のコラールとバッハの受難曲 6.　教会暦と音楽３：復活のコラールとバッハのカンタータ　レポートの作成 7.　ミサ曲の学び１：キリエ〈憐れみの賛歌〉 8.　ミサ曲の学び２：グロリア〈栄光の賛歌〉 9.　ミサ曲の学び３：クレド〈信仰告白〉 10.ミサ曲の学び４：サンクトゥス〈感謝の賛歌〉 11.ミサ曲の学び５：アニュス・デイ〈神の子羊〉 12.ミサ曲の学び６：まとめ　グループまたはペアでの試演　レポートの作成 13.モーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」 14.礼拝音楽の実際：会衆讃美・特別讃美・聖歌隊・奏楽について 15.　まとめと歌唱テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業テーマについての下調べや配布プリントによる予習を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだ事柄についてmanabaに掲載する参考資料、練習用音源（mp3)、参考音源URL等を活用して復習する（学習時間：2時間）
授業方法	演習：歌詞（ラテン語、ドイツ語）の発音を学び、楽譜を読んで歌唱練習をする。 重唱や合唱の練習・試演をペアやグループで行う。
評価基準と評価方法	授業態度50%　レポート20%　発表・歌唱テスト30% 授業態度：歌唱への取り組み姿勢、アンサンブルの積極性と協調性　他者の演奏や鑑賞を聴く態度 レポート：授業で学んだ内容の理解を確認し考察を評価する。レポートを添削して返却しフィードバックする 発表・歌唱テスト：歌唱の習熟度と歌唱・発表の態度を評価する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない場合は原則単位認定を行わない
履修上の注意	歌うこと、聴くこと、音楽全般に対する積極的な姿勢が望まれる
教科書	プリントを配布する
参考書	「キリスト教と音楽　ヨーロッパ音楽の源流をたずねて」音楽之友社　ISBN-13 978-4276110588 「発声と身体のレッスン」白水社　ISBN-13 978-456082003 「ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック」ハンナ　ISBN-13 978-4883641475

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	教会音楽入門B						
担当教員	緋田　芳江					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z1213B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	教会音楽への理解を深め、歌唱力と芸術への理解力を身につける
授業の概要	教会音楽、特に声楽・合唱作品の解説と歌唱、鑑賞を通して多角的に理解を深める。歌唱技術を磨き、ハーモニーを楽しむ。クリスマスを通し日常生活と教会音楽について気付きを得、音楽の喜びとキリスト教、日々の暮らしとの接点を考える。
到達目標	教会音楽（声楽作品）について説明することが出来る【知識・理解】 楽譜を読み、ラテン語・英語の楽曲を歌うことが出来る【汎用的技能】 他者と協力・協調して演奏を実現することが出来る【態度・志向性】 キリスト教と日常生活の接点を知り文化への理解を深めることができる【態度・志向性】
授業計画	1. 授業の進め方　歌唱の基本を学ぶ 2.ラテン語聖歌を歌う１：タントゥム・エルゴ 3.ラテン語聖歌を歌う２：アヴェ・マリア 4.ラテン語聖歌を歌う３：２声の楽曲 5. 英語で歌う１　メサイアを学ぶ（第１部：生誕） 6. 英語で歌う２　メサイアを学ぶ（第２部：受難） 7. 英語で歌う３　メサイアを学ぶ （第３部：復活） 8.まとめと歌唱テスト　　レポート 9. 教会暦と音楽１：待降節のコラール 10.教会暦と音楽２：降誕節のコラール 11.教会暦と音楽３：クリスマスキャロル 12. 聖書と聖歌によるクリスマス礼拝 13. 追悼の音楽：レクイエム 14. 旧約聖書の音楽：詩編、雅歌、哀歌 15. まとめと 歌唱テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で学ぶ項目の下調べと読譜、練習などの予習。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだ作品についてmanabaに掲載する資料、練習用音源、参考音源・動画等を活用し復習する。（学習時間：2時間）
授業方法	演習：楽曲の歌詞（ラテン語・英語・ドイツ語）の発音と意味を学び、歌唱練習を行う。重唱や合唱をペアやグループで行う。オルガン（または電子楽器）の伴奏で歌う。関連する芸術作品を鑑賞する。
評価基準と評価方法	授業態度50%　レポート20%　歌唱テスト30% 授業態度：歌唱、鑑賞の態度を評価 レポート：学んだ内容の理解の確認と考察の評価　添削して返却しフィードバックを行う 歌唱テスト：歌唱演習の習熟度と演唱態度を評価 出席回数が開講日数の2/3に満たない場合は原則単位認定を行わない
履修上の注意	歌うこと、聴くこと、音楽全般に対する積極的な姿勢が望まれる
教科書	プリントを配布する
参考書	「キリスト教と音楽　ヨーロッパ音楽の源流をたずねて」音楽之友社　ISBN-13 978-4276110588 「発声と身体のレッスン」白水社　　ISBN-13 978-456082003

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教思想／キリスト教思想I						
担当教員	濱崎　雅孝					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教の基礎を踏まえて、キリスト教の教理が西洋思想に与えた影響について考察する。 キリスト教神学のなかで、特に人間論に関わるものを解説する。
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」「キリスト教の基礎」の履修を終えた学生が、さらにキリスト教についての理解を深めて、現代の教養の基礎を習得することにある。 キリスト教の思想は西洋文化の土台となっているので、それを学ぶことによって国際社会で生きるための確かな知恵と知識を習得できる。
到達目標	(1) 建学の精神の土台であるキリスト教とその人間観を理解している。【知識・理解】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。【知識・理解】
授業計画	第１回　人間の本性と発展 第２回　人間に自由意志はあるのか 第３回　人間は神を知ることができるのか 第４回　人間の自己中心性は悪いことなのか 第５回　キリストは神なのか人間なのか 第６回　すべての苦悩の原因は人間の欲望なのか 第７回　人は本当に一人では生きられないのか 第８回　人間と動物の違いは何か 第９回　近代文明と人間の疎外について 第10回　愛とは何か 第11回　人間に芸術は必要か 第12回　なぜ宗教があるのか 第13回　人は死んだらどうなるのか 第14回　これからの世界とキリスト教 第15回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業では神学の専門書からの引用を用いますが、関連する聖書の箇所を提示しますので、受講生はを各自で聖書を読んでおく必要があります。毎回の授業で扱った聖書の箇所を次の授業日までに読んで、授業の復習をしてもらいます（学習時間の目安：４時間/週）。
授業方法	講義形式です。
評価基準と評価方法	平常点：３０％（毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。レポートの内容によって毎回２点/１点/０点と評価していきます。欠席の場合は０点になります。） 期末試験：７０％（授業全体の内容をどれだけ理解していたかを試す試験を最終回に行います。）
履修上の注意	４回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 細かい点数配分などについては、初回の授業で説明します。
教科書	特にありません。毎回、資料プリントを配布します。
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と諸宗教						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。
到達目標	・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・日本人の宗教観と日本の宗教の基礎について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・ユダヤ教とキリスト教の関係史について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：宗教の起源（考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム） 第3回：神話（神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判） 第4回：儀礼（宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション） 第5回：日本人の宗教観（宗教統計調査、宗教意識の国際比較、神道、仏教、神仏習合）　―第1回小テスト 第6回：近代日本の宗教政策（キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令） 第7回：国教制度と政教分離（西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離） 第8回：宗教間の関係（ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、共通性と相違、正典の構造） 第9回：古代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（ディアスポラ、タキトゥス、新約聖書、古代教父） 第10回：中世におけるユダヤ教とキリスト教の関係（エクレシアとシナゴーグ、十字軍、『ヴェニスの商人』）　―第2回小テスト 第11回：近代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（近代革命、啓蒙思想、ハスカラ、ユダヤ知識人） 第12回：反ユダヤ主義とショアー（ホロコースト、コルベ神父、エディット・シュタイン、『夜と霧』） 第13回：反ユダヤ主義の思想的根拠（無神論、フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ） 第14回：現代におけるユダヤ教とキリスト教（第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世、ダブルー・エメト） 第15回：宗教間対話の展開（講義の総括と展望）　―第3回小テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に3回の小テストを実施する。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト70%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	石井研士『プレステップ宗教学（プレステップシリーズ 08)』弘文堂 小原克博『一神教とは何か――キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と文化／キリスト教と文化I						
担当教員	岩井　謙太郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教と文化との関わり
授業の概要	本講義では、主として明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教と関係がある文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとしてキリスト教思想の特性を明らかにする。その際、キリスト教の学びの特性についても併せて紹介する。
到達目標	・キリスト教の学びの特性について説明することができる。【知識・理解】 ・近現代日本文学作品に見られるキリスト教思想の特性について説明することができる。【知識・理解】 ・キリスト教と世俗的文化との関係性について説明することができる。【知識・理解】
授業計画	以下のテーマを中心にして授業を進めていく。 第１回　オリエンテーション／キリスト教と文化との関係性 第２回　キリスト教思想の特性①　神学 第３回　キリスト教思想の特性②　宗教哲学 第４回　キリスト教思想の特性③　現代宗教学 第５回　キリスト教思想と近代日本文学との接点 第６回　夏目漱石『こころ』 第７回　筒井康隆『誰にもわかるハイデガー』 第８回　キリスト教における死生観の問題 第９回　志賀直哉『暗夜行路』 第１０回　キリスト教における赦しの問題 第１１回　三浦綾子『氷点』 第１２回　キリスト教における罪の問題 第１３回　遠藤周作『深い河』 第１４回　キリスト教における他宗教との関わりの問題 第１５回　まとめ／近代日本文学とキリスト教思想との関係性
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で取り扱うキーワードについて書籍やインターネット等で調べておくこと（学習時間2時間） 授業後学習：授業で学んだ学習内容をノートにまとめて整理・確認すること（学習時間2時間）
授業方法	講義科目ではあるが、授業内容に対する意見や要望などをアンケートし、出来るだけ受講者各人の主体的関心を反映させながら授業を進めたい。また、理解の一助となるよう、映像（DVD等）の鑑賞も採り入れる予定である。
評価基準と評価方法	学期末に提出するレポート（６０％） 平常点【感想文および授業に対する積極的な取り組み】（４０％）
履修上の注意	授業回数の３分の２以上の出席に満たない受講者はレポートの提出資格を失うものとする。
教科書	教科書は使用しない。 レジュメを適宜配布する。
参考書	安森敏隆他編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、２００２年 その他、講義テーマに即した参考文献を授業内で随時紹介していく。

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教入門
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神涜罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	【遠隔授業】 講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50%
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書　キリスト教』講談社

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の歴史／キリスト教の歴史I						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教史入門
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母体として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数他の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。
到達目標	・聖書の成立史と翻訳の歴史の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教と文学や映画等の文芸作品とのかかわりを知り、説明することができる。（知識・理解） ・日本におけるキリスト教受容史の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教史の学びを通じて、諸宗教と異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の歴史１（旧約聖書の成立、聖書と言語、写本） 第3回：聖書の歴史２（アポクリファの成立と特徴） 第4回：聖書の歴史３（新約聖書の成立、パウロの書簡、福音書） 第5回：聖書の歴史４（聖書翻訳の歴史、ヒエロニムス、ルター） 第6回：聖書の歴史５（日本（語）と聖書）　―第1回まとめテスト 第7回：キリスト教と文芸１（西洋文学とキリスト教） 第8回：キリスト教と文芸２（日本文学とキリスト教） 第9回：キリスト教と文芸３（聖書そのものを描いた映画） 第10回：キリスト教と文芸４（聖書のスピンオフ映画） 第11回：キリスト教と文芸５（キリスト教精神を描いた映画）―第2回まとめテスト 第12回：日本キリスト教史１（フランススコ・ザビエル、大航海時代） 第13回：日本キリスト教史２（ルイス・フロイス、『日本史』） 第14回：日本キリスト教史３（日本人キリシタン、高山右近、細川ガラシャ） 第15回：日本キリスト教史４（明治期以降のキリスト教宣教史）―第3回まとめテスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・毎回manabaを用いた小テストを行う。 ・学期中に3回の「まとめテスト」を行なう。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物40%（manabaの小テスト、講義内容へのコメント） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』（朝日文庫） 五野井隆史『日本キリスト教史』（吉川弘文館） 鈴木範久『聖書の日本語　翻訳の歴史』（岩波書店）

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12100
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教礼拝入門　―その実際と歴史―
授業の概要	本講座の目的はキリスト教会の中心的営みである「礼拝」に対する理解を深めることにある。礼拝行為の自覚的・批判的考察が目的であるため、礼拝に関する実際の経験が前提となる。初回授業で本講座の概要を説明する。歴史的視点からキリスト教礼拝を考察し、サクラメントや多様な礼拝形態に対する理解を養う。さらに礼拝を実際に体験することを重視する。本学と歴史的に関係の深い聖公会等の礼拝を例として取り上げ、キリスト教礼拝の実際とその意味を考察する。
到達目標	・キリスト教の礼拝に参加するために必要な基礎知識を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教礼拝の歴史の概略と礼拝形式の多様性を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・フィールドワークでの学び（近隣教会での主日礼拝）を通して、礼拝に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。（態度、志向性）
授業計画	A.イントロダクション 第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価方法に関する説明） 第2回：神戸松蔭のチャペルと礼拝 B.歴史から見た礼拝 第3回：考古学に見る礼拝行為 第4回：諸宗教の礼拝形式 第5回：旧約聖書に見るユダヤ教の礼拝形式　～主の過越し、ヨム・キップル等～ 第6回：キリスト教の礼拝形式の成り立ち　～洗礼、主の晩餐、主の祈り～ 第7回：教会の一年　～教会暦～ 第8回：ミサ（聖餐式）について　～ミサの次第、教会の中に置かれている様々なものの意味～　―中間試験 C.礼拝の体験　～フィールドワーク～ 第9回：本学チャペルでの礼拝体験（ヌーンサービス2回以上の出席を含む） 第10回：グループワーク・調べ学習（訪問する教会の歴史と礼拝の特徴を調べる） 第11回：グループワーク・発表（調べ学習について各グループが発表する） 第12回：教会の礼拝への参与（聖公会） 第13回：教会の礼拝への参与（カトリック） 第14回：諸宗教の礼拝見学 第15回：全体のまとめ ※ Cの「フィールドワーク」の時期・訪問回数等は、訪問先の教会の都合に合わせて調整する。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。また、折に触れて「祈祷書」「聖歌集」に触れて、親しんでほしい。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	・講義形式に加えて、グループワークとフィールドワークを行う。
評価基準と評価方法	・課題点50%（manaba小テスト、レポート課題、中間テスト） ・グループワークへの取り組み20% ・フィールドワークへの取り組みとレポート課題30%
履修上の注意	・授業回の三分の一以上欠席した学生は、原則として不合格とする。 ・フィールドワーク（礼拝体験）への参加は必須とし、これを満たさない場合は不合格とする。 ・参加する礼拝の場所、日程等、移動方法等については授業時間内に知らせるので注意すること。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 ウィリアム・ウィリモン『言葉と水とワインとパン～』（新教出版社） エドワード・フォーリー『時代から時代へ』（聖公会出版） 『日本聖公会　祈祷書』（1990年） 『日本聖公会　聖歌集』（2006年）

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	現代のキリスト教						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12080
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	現代世界の諸問題とキリスト教
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渇望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。
到達目標	・西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。（知識・理解） ・現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。（知識・理解） ・グループワークと発表を通して、課題に応じて他者と共同して調べ、それをわかりやすく人に伝えることができる。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） A.人間の尊厳とキリスト教 第2回：西洋思想史における人間の尊厳 第3回：キリスト教と人間の尊厳 第4回：東洋的人間観とキリスト教　―第1回小テスト B.現代社会における倫理的課題とキリスト教 第5回：隣人の範囲設定と社会的正当化 第6回：優生思想との対決 第7回：出生前診断 第8回：人工妊娠中絶 第9回：生殖医療の現在 第10回：里親制度と養子縁組制度 第11回：尊厳死、安楽死　―第2回小テスト C.現代に生きる私たちとキリスト教（グループワークと発表） 第12回：グループワークのテーマとと発表方法の説明 第13回：学生グループによるワークと発表、質疑応答 第14回：学生グループによるワークと発表、質疑応答 第15回：現代におけるキリスト教の課題（講義の総括と展望）　―レポート課題の提出
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）
授業方法	講義およびグループワークと発表。
評価基準と評価方法	・2回の小テストとグループワークへの取り組み70%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・授業内での提出物等30%（講義内容へのコメント等）
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。後半のC(グループワークと発表）の出席は必須とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』（東信堂） 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問い直す』（上智大学）

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道 および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、 本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について 考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教を より幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神に ついて考える。
到達目標	（１）キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 （２）キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 （３）キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 （４）いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田） 第2回　キリスト教とはー暮らしの中のキリスト教（木鎌） 第3回　神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌） 第4回　聖公会とはー成立史と特徴（木鎌） 第5回　日本におけるキリスト教伝道（１）ーキリシタンの時代（木鎌） 第6回　日本におけるキリスト教伝道（２）ー明治期以降の伝道（木鎌） 第7回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（１）ー神戸に来た再宣教時代の宣教師たち（木鎌） 第8回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（２）ー松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌） 第9回　キリスト教と芸術（１）ーキリスト教音楽（木鎌） 第10回　キリスト教と芸術（２）ーキリスト教美術（木鎌） 第11回　いのちを考える（１）ー聖書における「いのち」（木鎌） 第12回　いのちを考える（２）ー社会的実践例（木鎌） 第13回 キリスト教の活動と愛の精神（１）　ー聖書における「隣人愛」（木鎌） 第14回 キリスト教の活動と愛の精神（２）　ーマザー・テレサを例に（木鎌） 第15回 授業内容のまとめと期末試験（木鎌）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Ｗｅｂサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）
授業方法	【遠隔授業】 授業資料と解説動画を配信して、講義形式で行う。 受講生の質問等については、松蔭manaba掲示板で回答する。
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 ・授業内での提出物：松蔭manabaにより、各回提出する小テストと、隔回のレポート(講義内容についてのコメント)の内容・記述の的確さを評価する。 ・期末試験：到達目標（１）から（４）の到達度の確認。
履修上の注意	・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。
教科書	使用しない
参考書	『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 ー英国国教会から世界へー』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌 : 1892〜2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌 : 1947〜2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉　美術作品に表されたキリスト教信仰』ー麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯―スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道 および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、 本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について 考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教を より幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神に ついて考える。
到達目標	（１）キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 （２）キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 （３）キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 （４）いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田） 第2回　キリスト教とはー暮らしの中のキリスト教（木鎌） 第3回　神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌） 第4回　聖公会とはー成立史と特徴（木鎌） 第5回　日本におけるキリスト教伝道（１）ーキリシタンの時代（木鎌） 第6回　日本におけるキリスト教伝道（２）ー明治期以降の伝道（木鎌） 第7回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（１）ー神戸に来た再宣教時代の宣教師たち（木鎌） 第8回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（２）ー松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌） 第9回　キリスト教と芸術（１）ーキリスト教音楽（木鎌） 第10回　キリスト教と芸術（２）ーキリスト教美術（木鎌） 第11回　いのちを考える（１）ー聖書における「いのち」（木鎌） 第12回　いのちを考える（２）ー社会的実践例（木鎌） 第13回 キリスト教の活動と愛の精神（１）　ー聖書における「隣人愛」（木鎌） 第14回 キリスト教の活動と愛の精神（２）　ーマザー・テレサを例に（木鎌） 第15回 授業内容のまとめと期末試験（木鎌）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Ｗｅｂサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）
授業方法	【遠隔授業】 授業資料と解説動画を配信して、講義形式で行う。 受講生の質問等については、松蔭manaba掲示板で回答する。
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 ・授業内での提出物：松蔭manabaにより、各回提出する小テストと、隔回のレポート(講義内容についてのコメント)の内容・記述の的確さを評価する。 ・期末試験：到達目標（１）から（４）の到達度の確認。
履修上の注意	・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。
教科書	使用しない
参考書	『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 ー英国国教会から世界へー』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌 : 1892〜2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌 : 1947〜2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉　美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯―スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道 および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、 本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について 考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教を より幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神に ついて考える。
到達目標	（１）キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 （２）キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 （３）キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 （４）いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田） 第2回　キリスト教とはー暮らしの中のキリスト教（木鎌） 第3回　神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌） 第4回　聖公会とはー成立史と特徴（木鎌） 第5回　日本におけるキリスト教伝道（１）ーキリシタンの時代（木鎌） 第6回　日本におけるキリスト教伝道（２）ー明治期以降の伝道（木鎌） 第7回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（１）ー神戸に来た再宣教時代の宣教師たち（木鎌） 第8回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（２）ー松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌） 第9回　キリスト教と芸術（１）ーキリスト教音楽（木鎌） 第10回　キリスト教と芸術（２）ーキリスト教美術（木鎌） 第11回　いのちを考える（１）ー聖書における「いのち」（木鎌） 第12回　いのちを考える（２）ー社会的実践例（木鎌） 第13回 キリスト教の活動と愛の精神（１）　ー聖書における「隣人愛」（木鎌） 第14回 キリスト教の活動と愛の精神（２）　ーマザー・テレサを例に（木鎌） 第15回 授業内容のまとめと期末試験（木鎌）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Ｗｅｂサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）
授業方法	【遠隔授業】 授業資料と解説動画を配信して、講義形式で行う。 受講生の質問等については、松蔭manaba掲示板で回答する。
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 ・授業内での提出物：松蔭manabaにより、各回提出する小テストと、隔回のレポート(講義内容についてのコメント)の内容・記述の的確さを評価する。 ・期末試験：到達目標（１）から（４）の到達度の確認。
履修上の注意	・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。
教科書	使用しない
参考書	『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 ー英国国教会から世界へー』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌 : 1892〜2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌 : 1947〜2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉　美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯―スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道 および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、 本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について 考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教を より幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神に ついて考える。
到達目標	（１）キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 （２）キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 （３）キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 （４）いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田） 第2回　キリスト教とはー暮らしの中のキリスト教（木鎌） 第3回　神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌） 第4回　聖公会とはー成立史と特徴（木鎌） 第5回　日本におけるキリスト教伝道（１）ーキリシタンの時代（木鎌） 第6回　日本におけるキリスト教伝道（２）ー明治期以降の伝道（木鎌） 第7回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（１）ー神戸に来た再宣教時代の宣教師たち（木鎌） 第8回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（２）ー松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌） 第9回　キリスト教と芸術（１）ーキリスト教音楽（木鎌） 第10回　キリスト教と芸術（２）ーキリスト教美術（木鎌） 第11回　いのちを考える（１）ー聖書における「いのち」（木鎌） 第12回　いのちを考える（２）ー社会的実践例（木鎌） 第13回 キリスト教の活動と愛の精神（１）　ー聖書における「隣人愛」（木鎌） 第14回 キリスト教の活動と愛の精神（２）　ーマザー・テレサを例に（木鎌） 第15回 授業内容のまとめと期末試験（待田）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Ｗｅｂサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）
授業方法	【遠隔授業】 授業資料と解説動画を配信して、講義形式で行う。 受講生の質問等については、松蔭manaba掲示板で回答する。
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 ・授業内での提出物：松蔭manabaにより、各回提出する小テストと、隔回のレポート(講義内容についてのコメント)の内容・記述の的確さを評価する。 ・期末試験：到達目標（１）から（４）の到達度の確認。
履修上の注意	・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。
教科書	使用しない
参考書	『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 ー英国国教会から世界へー』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌 : 1892〜2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌 : 1947〜2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉　美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯―スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z11010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道 および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、 本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について 考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教を より幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神に ついて考える。
到達目標	（１）キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 （２）キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 （３）キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 （４）いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田） 第2回　キリスト教とはー暮らしの中のキリスト教（木鎌） 第3回　神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌） 第4回　聖公会とはー成立史と特徴（木鎌） 第5回　日本におけるキリスト教伝道（１）ーキリシタンの時代（木鎌） 第6回　日本におけるキリスト教伝道（２）ー明治期以降の伝道（木鎌） 第7回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（１）ー神戸に来た再宣教時代の宣教師たち（木鎌） 第8回　神戸松蔭の歴史とキリスト教（２）ー松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌） 第9回　キリスト教と芸術（１）ーキリスト教音楽（木鎌） 第10回　キリスト教と芸術（２）ーキリスト教美術（木鎌） 第11回　いのちを考える（１）ー聖書における「いのち」（木鎌） 第12回　いのちを考える（２）ー社会的実践例（木鎌） 第13回 キリスト教の活動と愛の精神（１）　ー聖書における「隣人愛」（木鎌） 第14回 キリスト教の活動と愛の精神（２）　ーマザー・テレサを例に（木鎌） 第15回 授業内容のまとめと期末試験（待田）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Ｗｅｂサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）
授業方法	【遠隔授業】 授業資料と解説動画を配信して、講義形式で行う。 受講生の質問等については、松蔭manaba掲示板で回答する。
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 ・授業内での提出物：松蔭manabaにより、各回提出する小テストと、隔回のレポート(講義内容についてのコメント)の内容・記述の的確さを評価する。 ・期末試験：到達目標（１）から（４）の到達度の確認。
履修上の注意	・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。
教科書	使用しない
参考書	『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 ー英国国教会から世界へー』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌 : 1892〜2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌 : 1947〜2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉　美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯―スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	新約聖書を学ぶ						
担当教員	木鎌　耕一郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z12040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	新約聖書を読む
授業の概要	「新約聖書」は、２７冊の書物を取りまとめたものです。どの書物も、イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になっていますが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちとは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。
到達目標	（１）新約聖書の四福音書それぞれの特徴の背景となっている歴史と成立の事情を理解できるようにする。（知識・理解） （２）使徒言行録とパウロ等の書簡の特徴を理解し、説明できるようにする。（知識・理解） （３）新約聖書の思想を踏まえて、現代社会の諸問題について自分の意見を持てるようにする。（汎用的技能）（態度・志向性）
授業計画	第1回　ガイダンス（授業の目標と概要、評価方法についての説明） 第2回　聖書の構造（旧約聖書から新約聖書まで） 第3回　新約聖書諸文書の成立経緯、共観福音書 第4回　聖書翻訳の歴史 第5回　日本語聖書の成立―　第1回まとめテスト 第6回　マルコ福音書の成立と特徴 第7回　マタイ福音書の成立と特徴 第8回　ルカ福音書の成立と特徴 第9回　ヨハネ福音書の成立と特徴 第10回　使徒言行録の成立と特徴　―第2回まとめテスト 第11回　書簡の成立と特徴 第12回　パウロ書簡に見る隣人愛思想の展開 第13回　パウロ書簡に見るユダヤ教的遺産 第14回　新約聖書と初期キリスト教共同体の形成 第15回　全体のまとめと展望　―　第3回まとめテスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の新約聖書の該当箇所を熟読し、疑問に思うことを自分で調べ、それでも理解できない点について書き留めておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で読んだ新約聖書の箇所と講義内容を再読し、身近な事柄や現代の社会問題に応用できる点を自ら考え、得られた知識を書き留める。（学修時間：2時間）
授業方法	・基本的に講義形式で行うが、必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。 ・授業初めに聖書の輪読の時間を設ける（受講者には輪読形式で「音読」をしてもらう。そのため遅刻は減点の対象とし、正当な理由がないかぎり20分以上の遅刻者は入室を認めない。
評価基準と評価方法	・毎回の授業で、manaba小テストとコメントシート（Ａ：3点　Ｂ：2点　Ｃ：1点で評価をする）を提出してもらう：成績全体の40% ・3回のまとめテスト：成績全体の60%（1回のテストは全体の20%）
履修上の注意	・テキスト（聖書）を必ず持参すること。 ・授業初めの聖書の輪読を重視するので、遅刻には極力注意すること。 ・5回以上の欠席者は不合格とする。 ・小テストを2回受験しなかった場合、その時点で60点に満たなくなるので不合格となる。
教科書	聖書 ・聖書を持っている場合には、初回授業に聖書を持参してください。翻訳によっては授業で使えないものがあります。 ・これから購入する場合は、日本聖書協会の最新の日本語訳聖書『聖書協会共同訳　聖書』、もしくは広く使われている日本聖書協会『新共同訳　聖書』を勧めます。
参考書	・日本聖書協会『聖書スタディ版　新共同訳　わかりやすい解説付き』 ・辻学『隣人愛のはじまり　聖書学的考察』信教出版社 その他、適宜、授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技IIA						
担当教員	伊藤　純子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z1212A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0

授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」 パイプオルガン入門ＡＢでの学びの延長線上として、オルガンでコラール変奏曲を演奏する。 その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについて学ぶ。
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。【汎用的技能】 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。【汎用的技能】 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。【知識・理解】 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。【知識・理解】 ⑤コラール変奏曲演奏のための、オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。【汎用的技能】 ⑥コラール変奏曲を、オルガンで美しく演奏できるようになる。【汎用的技能】 ⑦楽器についての知識を深め、オルガンという楽器の特異性を実感することが出来る。【態度・志向性】
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方） 第３回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方） 第４回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方） 第５回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方） 第６回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び 第７回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏 第８回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり　聖歌歌唱 第９回：コラール変奏曲の曲の構成について 第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定 第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫 第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫 第13回：コラール変奏曲演奏の完成 第14回：試験準備 第15回：　試験とまとめ　＜実技試験＞オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 ＜筆記試験＞講義内容について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：２時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り､演奏に反映できるように練習する。（学習時間：２時間）
授業方法	解説、実習
評価基準と評価方法	平常点（授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20%
履修上の注意	定員10名程度 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤演奏経験者が望ましい パイプオルガン入門ＡＢの履修修了者であることが望ましい ３分の２以上の出席が必要 ※止むを得ない事情により、チャペル内のオルガンを使用できない場合がある
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）

参考書	日本聖公会 聖歌集

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	上野　静江					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z1212B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0

授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう　（初級）
授業の概要	チャペルのオルガンを用いて、パイプオルガン演奏の基礎的な実習を行う。 コラールを題材に書かれたドイツバロックの平易な小品、さらにグレゴリオ聖歌を題材に書かれたフランス古典の小品を課題とするが、具体的な課題曲については、受講生に応じて個別に決定する。 聖歌の伴奏についても取り上げる。
到達目標	１）パイプオルガンを演奏するための基本的な技術を身につける。【知識・理解】 ２）コラールに基づく小品（ドイツバロック）を演奏できるようになる。【汎用的技能】 ３）グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏できるようになる。【汎用的技能】 ４）聖歌について、長年歌い継がれてきた歴史的意義を楽曲演奏を通して理解し､体感することができる。【知識・理解】 ５）松蔭のオルガンについて詳しく知り、様々なパイプの効果的な用い方を知る。【知識・理解】
授業計画	A.基礎と導入 第１回 オリエンテーション 第２回 オルガン奏法の基礎①（タッチ・楽器へのアプローチの確認） 第３回 オルガン奏法の基礎②（音の組み合わせ） 第４回 オルガン奏法の基礎③（ペダル） B.コラールとドイツバロックの小品 第５回 楽曲への取り組み①（コラール） 第６回 楽曲への取り組み②（コラールと楽曲） 第７回 楽曲への取り組み③（詩編歌） 第８回 楽曲への取り組み④（詩編歌と楽曲） ＊17～18世紀のコラールや詩編歌に基づく作品の中から、各人のレベルに合った曲を選び、よりよい演奏に仕上げていくためのプロセスを楽しみ、技術的な問題、楽曲の解釈等あらゆる側面から探ってゆく。 C.グレゴリオ聖歌とフランス古典の小品 第９回 楽曲への取り組み⑤（グレゴリオ聖歌とフランス古典） 第10回 楽曲への取り組み⑥（プランジュ） 第11回 楽曲への取り組み⑦（グランジュ） 第12回 楽曲への取り組み⑧（コルネ） ＊グレゴリオ聖歌に基づく小品を取り上げ、松蔭のフランス様式のオルガンに相応しい音の組み合わせとその響きを知る。 D.まとめ 第13回 聖歌と伴奏 第14回 クラス内発表会での演奏の準備 第15回 クラス内発表会とその講評 ＊学期中に取り組んだ楽曲の中から、任意の曲を選び演奏する。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：２時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り､演奏に反映できるように練習する。（学習時間：２時間） 練習の方法、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。
授業方法	グループレッスン形式による実技および講義。 毎回のテーマ、楽曲についての解説をすすめながら、受講者各人に応じた課題曲をパイプオルガンで演奏する。
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）
履修上の注意	「パイプオルガン入門」を履修済みであることが望ましい。

教科書	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に紹介する。
参考書	・日本聖公会　聖歌集 ・ルター派　教会讃美歌 ・「クラヴィス」大塚直哉編

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門A						
担当教員	伊藤　純子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z1111A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	パイプオルガンへのアプローチ ～楽器、礼拝、音楽の視点から～
授業の概要	「パイプオルガンへ多角的に近づく」 ・パイプオルガンという楽器について、ルーツと発音の仕組み、歴史や国ごとの違いを学ぶ ・礼拝について、また礼拝と音楽との関係性について、概略を学ぶ ・オルガンで美しい音を鳴らす工夫と、実際に聖歌を歌い伴奏する体験をする ＊以上について、知識だけではなく、視覚的・聴覚的・身体的体験からの習得の機会とする
到達目標	①パイプオルガンという楽器について知ることができる １、しくみ　２、オルガンの歴史　３、オルガン音楽のレパートリー【知識・理解】 ②礼拝について知ることができる １、礼拝と歌・オルガンとの関係　２、教会暦とその音楽【知識・理解】 ③上記①②により「パイプオルガンは息の楽器であり、礼拝と共に歩んできた」ことを習得した上で、実際に聖歌を歌い、美しい伴奏（ソプラノ声部とバス声部の二声）を行うことができる【汎用的技能】【態度・志向性】 ④上記①～③の習得は、オルガン入門Ｂにおける四声体聖歌とコラール演奏のための導入となる
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：【楽器１】「ルーツと仕組み」パイプオルガンの三大要素について、楽器内部の見学 第３回：【楽器２】「笛について」様々な笛の観察と、それらの特色や違いについて 第４回：【楽器３】「オルガンのスタイル」国ごとのオルガンの特色や歴史と、そのスタイル 第５回：【楽器４】「音楽史」オルガン音楽のレパートリーの、音楽史上での位置づけについて 第６回：【礼拝１】「礼拝とは」ミサの起源、様々な礼拝について 第７回：【礼拝２】「礼拝における音楽」古代からグレゴリオ聖歌、現代の聖歌集まで 第８回：【礼拝３】「教会暦」クリスマス、受難節、イースターについてとその音楽 第９回：【礼拝４】「コラール」ルターの宗教改革からバッハのカンタータまで 第10回：【演奏１】「美しい音を鳴らす」オルガンのタンギングやタッチの工夫 第11回：【演奏２】「うた」聖歌の歌唱における、身体の使い方の体験 第12回：【演奏３】「指揮」聖歌の歌唱を指揮する体験 第13回：【演奏４】「二声での奏楽１」10,11,12回の体験をもとにオルガンで奏楽 第14回：【演奏５】「二声での奏楽２」各自の練習の成果をもとにオルガンで奏楽 第15回：　試験とまとめ　＜実技試験＞オルガンで聖歌を二声で伴奏（全員で歌唱） ＜筆記試験＞講義内容について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず丁寧に読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：２時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り､演奏に反映できるように準備する。（学習時間：２時間） 個人練習時間を一週間にひとり２０－３０分間取得することができる これは授業中の実技体験を充実させるために必要である
授業方法	授業形態・授業方法： 講義形式の解説、音楽や映像の鑑賞、学生による実習 特に後半では、実技を中心に進める
評価基準と評価方法	平常点（内容：授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20% レポート提出２回、試験
履修上の注意	定員20名 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤楽器経験者が望ましい ３分の２以上の出席が必要 ※止むを得ない事情により、チャペルの大オルガンを使用できない場合がある

教科書	特になし（授業時にプリントを配布）
参考書	金澤正剛 著「キリスト教と音楽」＜音楽之友社＞ 大塚直哉 編「クラヴィス～むかしの鍵盤楽器を弾いてみよう～」現代ギター社 日本聖公会 聖歌集

－　　－　　－

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門B						
担当教員	上野　静江					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z1111B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）
授業の概要	チャペルにあるオルガンを用いたパイプオルガン入門。 楽器の構造、歴史、様式を踏まえた上で、演奏に必要な基礎的知識、技術を学ぶ。 パイプを美しく鳴らすための基礎的な奏法からはじめ、聖歌、さらに聖歌に基づく平易な小品を取りあげる。
到達目標	１）パイプオルガンを演奏するための基礎的な技術を身につける。【知識・理解】 ２）聖歌集について、その内容や成立の背景、教会歴に基づく分類、用い方を知る。【知識・理解】 ３）聖歌を歌詞や旋律の持つ意味を体現しつつ歌いやすく奏楽できるようになる。【汎用的技能】 ４）聖歌に基づく平易なオルガン作品を演奏できるようになる。【汎用的技能】 ５）松蔭のオルガンについて、その特徴、概要を知る。【知識・理解】
授業計画	A.導入 第1回　オリエンテーション 第2回　パイプオルガンについての基礎知識 B.オルガンの基礎 第3回　オルガン奏法の基礎（１）姿勢・呼吸 第4回　オルガン奏法の基礎（２）タッチ 第5回　オルガン奏法の基礎（３）アーティキュレーション C.聖歌について 第6回　聖歌について 第7回　聖歌を弾いてみる（１）旋律と歌詞 第8回　聖歌を弾いてみる（２）和声 D.聖歌に基づくオルガン作品 第9回　コラール前奏曲について 第10回　コラール前奏曲を弾いてみる（１）曲の構造 第11回　コラール前奏曲を弾いてみる（２）音色の工夫 第12回　松蔭のオルガンの概要とその特徴ある響きについて E.まとめ 第13回　クラス内発表会の準備（１）音色の組み合わせ 第14回　クラス内発表会の準備（２）音を客観的に捉える訓練 第15回　クラス内発表会（期末試験を兼ねる）とその講評 ＊学期中に取り組んだ曲の中から聖歌と前奏曲を1曲ずつ選び演奏する。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず丁寧に読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：２時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り､演奏に反映できるように準備する。（学習時間：２時間） 読譜や練習の方法、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。
授業方法	講義および実技。毎回のテーマ、楽曲についての解説をすすめながら、受講者がテーマに応じた課題をパイプオルガンで演奏する。
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）
履修上の注意	鍵盤楽器の経験があることが望ましい。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介する。

参考書	『クラヴィス』大塚直哉編 聖歌集（日本聖公会）